
世界に愛された転生者

リンドウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界に愛された転生者

【Nコード】

N9925N

【作者名】

リンドウ

【あらすじ】

ある日、ベンチでくつろいでいたらいきなり槍が降ってきた！？しかも暇つぶしのために別世界に行ってくれ？ふざけんと言いたいところだがまあ死んじゃったものは仕方がない原作ブレイクしてやんよ！！

注意書き

- ・これはりりかるなのはの二次創作です。
- ・原作にそつて創作するつもりです オリジナルストーリーなどをまぜるのでストーリーが著しく崩壊する可能性があります。
- ・作者は日時などはあまり覚えていないので矛盾が発生したり原作と違った日時になったりします。
- ・上の理由から日時はほぼ出しません。
- ・いろいろと自己解釈が入ります。
- ・これはいろいろとクロスネタが出てきます。
- ・元ネタを知らないと付いていけないかもしれません。
- ・この世界観はなのはの世界をベースにしますが、とらはとTYPE - MOONの世界観を混ぜるつもりです。
- ・管理局の一部がアンチです。
- ・オリ主は、原作と二次創作をよんである程度知っています。
- ・作者は、オリ主と同じで二次創作などを読んだだけなので知識が偏っています。

- ・最強です。

- ・はじめりは、原作前から始まります。

- ・なお 作者は初めて二次創作を書きますので読みづらいと思います。ご了承ください。

この注意書きをよんで読みたくねえな〜と感じた人はいますぐUターンしてBダッシュしてください。

それでは、世界に愛された転生者はじめります。

プロローグ

やあこんにちは紳士淑女の諸君。

え？朝や夜に見ている人もいるだろって？しらないのか？芸能界ではどの時間にテレビ局ですれ違ってもこんにちはなんだぞ？（激しく嘘です）

まあそんなまめ知識はともかく自己紹介を。

俺の名前は、御堂 銀二。大学生だ。

ちなみに、蛇遣い座アスクレピオスの力や雷帝の力は使えないぞ？ただ単に名前が似ているだけで。

で、その俺が今何をしているかというと

自分の死体を見下ろしています。

なぜこうなったかというと。

それは去ること 月 日俺は大学を昼までに終え人気のない公園でベンチに座って何かをするわけでも

なくボーっとしていたんだ。どれくらいそうしていたかは覚えていないがふと空を見上げるとなんか

槍っぱいものがふつてきたと思ったたらそれが生前の最後の記憶になつたんだ。

しかし、俺って何か未練があつたのかねえ自分の死体を見ていてつてことはまだ成仏してないってことだしかといって何か心当たりがあるわけではないしなあ。

つていうかいくら人気がないとはいえそろそろ騒ぎになつてもおかしくないというのにだれも気付かないつてのはどういうことだ？

「それは僕から説明します。」

後ろから声が聞こえたので、振り向くとそこに立っていたのはどっかでみたことあるなという感じの銀髪の少年だった。

で、あんただれ？

「だれつて、平賀サイト」

変わった名前ね。どこの平mつてゼロ魔かよつ！！知ってんのかよ！！

「いやあ それほどでも」

ほめてねえよ！！おまえ見た目よりも、ノリがいいなっ！！

「暇なのでみんなで小説を読んだりアニメを見たりとしているうちにいつの間にかこんな性格になっていました。」

暇なのかよつて言うかいい加減お前だれだよ。話が進まねえ。

裏死海文書の内容が全くのでたらめだと思っていたのになにその副産物？

「僕もそう思います」

前置きが長くなりすぎたな。いい加減本題に入ろうぜ？なんで俺死んだのをお前が説明すんの？

「簡単に言うと、ぶつちやけ神って暇なんです。なのでアニメの世界に一人異世界から送り込んだらどう変化するかっていうのを見てみたくってどっかの番組よろしく槍を投げて当たった人間を送り込もうってアスカが思いつきまして。」

ぶつちやけた〜！！っていつかやっぱり見覚えのあった槍はロンギヌスかよ！！

とつかそんなくだらない理由で人を殺すな！！

「ああ、大丈夫ですよ。魂をコピーして肉体も記憶もこの世界には残るので。」

ちげえ！！確かにその心配もあつたがちげえ！！人を殺すのは禁忌じゃねえのか！？

「いえ、偶に殺さないといけない人間も存在するので慣れてしまつてちよつと価値観が狂つちやつて」

わりい余計な事を聞いたな。

そういえば俺はどこに飛ばされるんだ？

「あ、はい。最初はリリカルなのは世界に転生してもらいます。」
「すまん。もう一回言ってくれ。リリかるなのは世界に最初はって聞こえたんだけど幻聴だよな？」

「いえあなたの聞こえたとおり最初はリリかるなのは世界です。アニメでも一作品だけでは見あきるでしょう？」

ああなるほど理解した。だがよりによってなんでリリカル？死亡フラグ満載じゃねえか。

「僕たち（作者）が好きだからです。それと、チートな能力を与えるつもりなので大丈夫です。」

あれ〜？お約束？というか能力って？

「ふつうに選んでも面白くないので、ダーツの矢を投げて当ててもらいます。」

銀二がそつちを見ると、「無限再生」「スキルMAX」「召喚獣無限召喚」”お好きなライダーを一体”

と書いてある円盤があったっておい、なんだか見えるか見えないかの細い投げるダーツの矢の太さぐらいの幅にちっさくなんか書いてあるじゃねえか。

銀二が近づいて行ってよくよく見るとそこには”想像を現実にかえる能力”と書いてあった。

何でこれだけういき風？

「ああそれは、思いついたはいいけどチート過ぎるからそれだけ幅が小さいんです。フレンドパークの一番豪華商品のようなものでね。」

いいのか神様そんないい加減で？

「遊び心も必要ですよ。とシンジは面白半分にもものまねしながら答えます。」

今度はインデックスかよ！なんで女性キャラばかりなんだ？

「（作者が）女性のキャラクターのネタしか思いつかないからです。そろそろ進めましよういつまでたってもプロローグが終わりません。」

メタ発言すんなよ。まあいいやじゃあ投げるぞ？ ほいつ！！

”カッ”

「ええと……」カラゝンカラゝン”大当たりゝ！！能力は、想像を現実にする能力に決定しましたゝ！！”

やったゝ！！正真正銘のチート来たー！！

それにしてもなんで適当に投げて当てれたんだ？

「ああそれは多分世界の加護のおかげなんじゃないかと」

は？いやそれなら俺なんで死んでんの？

「過去に、一度死んでチートでアニメの世界に生きてえとか考えませんでした？」

それか！

確かに何回か思っていたな！絶対それだ！ありがとう！！世界！！

「じゃあそろそろ飛ばしますが、いくつか世界についての情報をお伝えします。」

まずリリカルなのはの世界とは言いましたが、TYPE-MOONの世界観が混じっています。

次に、魔術は秘匿はされていますがばらしたところで特に問題はありません。

次に、一般人は神秘の存在自体は知っています。ですので自分の力を秘匿する必要はありません。

次に、当然魔術を使って悪さするバカも何人かいますが叩きのめした後は魔術協会につきだすと賞金がもらえます。まあ当然その時に魔術協会に登録される形になります。

次に、埋葬機関はすべての魔をつぶすではなく人間に対して害のある行動をしている魔のみ倒す形にシフトしています。

あなたが生まれるのは、原作の20年前になります。まああなたはちゃんと大体10歳違いといったところでしょうか。

聖杯戦争は、あなたが生まれるちょうど1年前には終わっています。決着はセイバーエンドあたりだと思ってください。

原作に出てきた神社には、とらはの久遠がいますので保護してあげてください。

資金面はご安心を、一度あっちの世界で交渉したところアルトル

「ジユさんが快く引き受けてくれました。

それから、月村一族の位置なんですがはるか昔の先祖に死徒がいて今は血がだいぶ薄まったという形です。遠野一族みたいな感じですね。

まあこれぐらいでしょうか。後は自分の目でお確かめください。」

いくつかじゃねえよ。いくつもじゃねえかよ。

「まあまあ、気にしてはだめです。それとはじめは赤ん坊ですけど念話を使えばほかの人とも話せますから不便はないはずです。」

おおそれは便利だ。

「では飛ばしますよ。出来れば管理局を変えるかつぶすかしてください。」

おうよまかせろ。派手にやってやるぜ。

俺は、これからのことに心躍らせつつ意識を薄らせていった。

”彼の旅路に幸あれ”

プロローグ（後書き）

イヤーやっつとプロローグが書き終わりました。

次から次へとアイデアが出る上に私が文章まとめるのが非常にへたくそなもんだから3ヶ月もかかってしまった（；^o^）。出来るだけペースをあげたいなーと思いつつがんばっています。

1話（前書き）

書いてるうちに次から次へとアイデアが浮かんでは消え浮かんでは消えと納得のいくまでいじっていたら時間がたちすぎた。それはともかく投稿です短いです。

1話

音が聞こえる

「姫様、この赤ん坊ですか？シンジの言っていた世界に守られし者とは」

声が聞こえる

「ええ、プライミッツが私の命令を無視してこの子のそばにいる」とからも決まりだわ。」

悲鳴が聞こえる

「ちよっ！！プライミッツ！！それはマジでしゃねにならないって！！！」

…ん？悲鳴？

「フィナ、あなた何したの？プライミッツがここまで殺気立つなんて珍しいんだけど？」

「いや、姫様僕は何もしていませんよ！！ただちよっとその子を味見しようとしてギャアアアア（。°。11）！！！！！！！！」

「あなた私の話聞いてたの？この子は星に守られてるの。星が作り出した精霊種であるプライミッツが動くのは当たり前じゃない。」

それ以前に、転生したとはいえ体は赤ん坊傷がついたらそこから細菌入るって聞いたから却下よ。」

「そんな殺生な！！せっかくおいしいごち^{チャキッ}スイマセンイマノハシツゲンデシタ；」

なんかコントみてるみたいだな； ん？

「あらおきたの？今日からここがあなたの家よ。よろしくね。」

「あーあーうー」

やばまだ会話は無理か

「あなたは私たちのこと知っているらしいから自己紹介はいいわね。それよりもおなかすいてない？ミルクやりって一度やってみたかったのよねえ」

一度つて；まあ腹減ってるけどさ。

ん？ということは俺は赤ん坊なわけでしかもこの城主と思われる方に抱かれていますので…

なにこの羞恥プレイ。というか今の会話の中の名前からしてここって千年城かよ！！

たしかに吸血鬼は赤ん坊育てたことのない人多そうだけどさ！！

「さ ミルクの時間よ」

やめろ！！シヨ ー！！おれにそんな趣味は！

つて今は赤ん坊だからミルクしか飲めないけどさ恥ずかしすぎるだろ！！（たとえるなら 入院している時に体が動かず一切合財看護

婦にやってもらっている状態。

主人公は死んだ時点で20を超えている状態。当然恥ずかしい)

A - - - - - !!

フフツ 燃えたよ燃え尽きたよ

ええ入院患者が下のお世話をされる気分なんか味わいたくなかったのに。

これが転生か

他の転生者はよく耐えられるなこんなの；

ああそうかだからとばしてあるのかよくわかります。

ああ眠くなってきたおやすみなさい。

はやくおお・・・き・・・くなり・・・たい

1話（後書き）

うーんこの後どういう展開にするべきか？

月姫に介入するかそれとも冬木にお邪魔するか？

オリジナルになるのは決まっているんだけどもどうするべきか？

うーん悩みます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9925n/>

世界に愛された転生者

2011年9月10日05時47分発行